

	年	組	番
名			
前			

## ■ 魅力を発見しよう

琳派とは、俵屋宗達にはじまり、尾形光琳に代表される江戸時代の絵師たちの一つのグループのことです。俵屋宗達と尾形光琳は、生きた時期が異なるため、直接画法を学んではいませんが、光琳は宗達の作品に幼いころから接する環境にあり、後に宗達の絵の模写もしています。→ 参考作品 ⑧ 178 「風神雷神図屏風」俵屋宗達

その中で、光琳は宗達の絵に魅力を感じ、その精神が時代を超えてつながり、様々な作品を生み出す力をつくりだしていったのかもしれませんが。次は、あなたが江戸時代に活躍した光琳の作品と出会い、その魅力を発見していきましょう。あなたの発見が、「かたち」を変えて、次の時代の誰かに何かを残すかもしれませんね。

### 1. 鑑賞 — 尾形光琳 ②「紅白梅図屏風」との出会い

あなたが P.128・P.129 ②「紅白梅図屏風」から発見した魅力は何でしょうか。また、感じたことは何でしょうか。画面を左と右、中心部分にわけて書き出してみましょう。

(1) 画面の左側と右側に描かれている「かたち」について、あなたが発見し、感じたことは何ですか。

(2) 画面の中心に描かれている「かたち」について、あなたが発見し、感じたことは何ですか。

(3) 画面全体から、あなたが発見し、感じたことは何ですか。

### 2. 模写 — 尾形光琳の P.128・P.129 ②「紅白梅図屏風」を模写しよう

--	--	--	--

光琳は俵屋宗達を深く尊敬し、宗達の絵を模写しています。そして、独自の発見と解釈を重ねていきました。あなたも光琳の絵を模写することで、また新たな発見に出会うかもしれません。